

# Partner

パートナー Vol. 48 2015.3 蕨市

## 蕨市男女共同参画情報紙

パートナーとは…  
女性と男性が共に明るい地域  
社会を築き上げようという意  
味と、市民の皆さんと市が共  
に手をたずさえていこうとい  
う願いが込められています。

さ  
ん  
か  
く

# 見つけたたろ！

特集  
P2-3

# 本

かたいイメージの男女共同参画ですが、おすすめ本で「そうなんだ！」と素直に納得！！  
絵本を中心にいろいろな視点で男女共同参画を考えることができる本を選びました。  
編集委員会イチオシの「さ・ん・か・く」本です。

## パートナー47号の感想

編集委員会では、読者の意見を今後の紙面、記事作りに活かすため、パートナー47号のアンケートを実施しました。皆様からお寄せいただいたご意見を、ご紹介いたします。

- ◆男性にとっての男女共同参画の特集は、私たち高齢者にとってとても参考になりました。第二の人生の生き方を社会や自身のために過ごせる充実した日々の過ごし方です。特に男性の高齢の方が生きがいを見つけて社会参加できることが大切だと思いますので、今後も続けて欲しいです。
- ◆妻たちの本音を読んでいて夫婦って色々なんですね！と思いました。楽しく読ませていただきました。
- ◆40代半ばの自分としてはとても身近な（現実的な）内容でとても参考になりました。定年まで健康的に働くのはもちろん、定年後の人生設計をいまから考えていく必要があると思いました。パートナーはいつも興味深い内容が多く面白いのですが、今回は特に世代が近いこともあり、「男50歳から考える人生設計」は面白かったです。

## 蕨市協働提案事業報告

### 「女性の多様な働き方を支援する事業」

～夢を形に！自己実現へ向けた具体的な取り組みへの支援～

実施団体：NPO法人子育て応援クラブむくむく



キャリアや特技・趣味を活かした起業を目指す女性を応援するため、NPO法人むくむくと市の協働事業として起業勉強会（10月・

11月）・交流会（9月・11月・1月）と個別相談会が開催されました。起業勉強会では、税務・労務・金融などの実践的な内容を、交流会では、起業という同じ目標を持つ女性たちの情報交換や仲間づくりを行いました。また、商工会議所の経営相談員による、伴走型個別相談を行い、起業に向け強力なサポートを行いました。参加者からは、「起業勉強会や交流会をとらして、自分の目標がはっきりしてきました。」と夢に一步近づいた声が聞かれました。



## 春が来たので（編集後記）

☆気がついたら委員になっていた。だけど、毎回違うテーマに添って情報を集めたり、勉強したり、取材をしたりして、色々な方とつながって、いつの間にか自分の財産となっている。一緒に委員やってみませんか？（N）

☆TVで平野啓一郎と若田光一の対談を見た。「地上では重力的影響で体格などの男女差があるが、宇宙ではほとんどない。宇宙に行くとなんか新しい人間の見方が出来るかもしれない」という話が印象に残った。（S）

☆昨年、米国セドナ・フルマラン年代別3位入賞、23年間継続のご褒美でした。パートナーもボランテニア編集委員21年目。作る仲間がいて、読んでもらえる人がいる幸せがご褒美と考えています。（O）

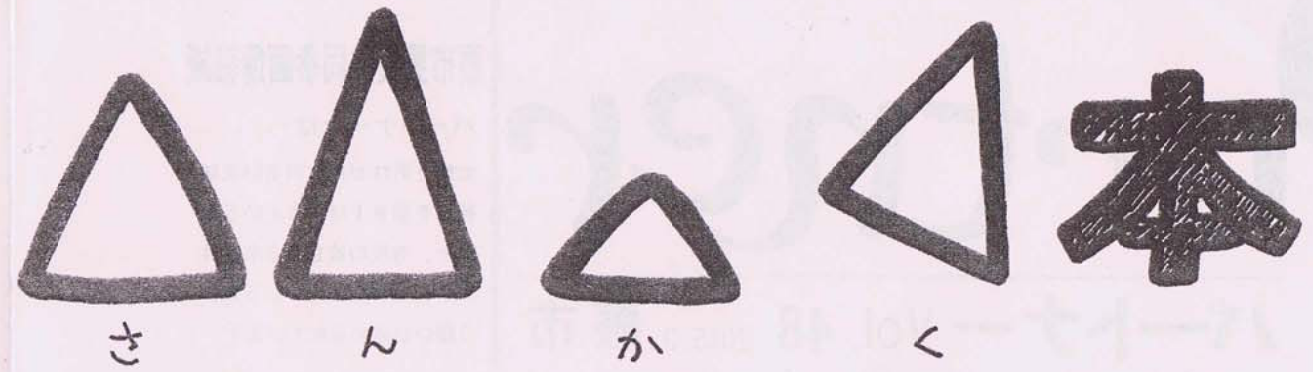
☆一年間『パートナー』編集に携わり、改めて男女共同参画の活動が大変であり大切であるかを学びました。思いやりの心をもとに人と人の「絆」を築き上げる社会をつくるためには、例えどんなに小さな活動でも継続することが大きな力につながります。（K）

☆『パートナー』に参加し、はや数年がたちました。まったく男女共同参画を理解していない私は、毎回の編集作業が勉強でした。これからの目標は、この『パートナー』をたくさんの方に知っていただき、また委員に興味を持って新しく参加して下さる方（老若男女問わず）が増えることです。（K）

パートナー第48号 企画編集 パートナー編集委員会（蕨市民生活部市民活動推進室内）  
編集委員 大石圭子 蔵迫祥子 新妻朋子 加藤光男 杉山節子 竹口素弘  
〒335-8501 蕨市中央5-14-15 電話048-433-7745  
Eメール siminsit@city.warabi.saitama.jp 2015年3月1日発行

パートナー  
編集委員が  
おすすめする

# 男女共同



## 「パパと怒り鬼」



出版社：ひさかたチャイルド  
作：グロー・ダーレ  
絵：スヴァイン・ニーフース  
共訳：大島かおり 青木順子

パパの家庭内暴力を、子ども目線で書いた絵本。読んでいてドキドキするほどの緊迫感があります。実際の子どもはどんな精神状態なのだろうか。登場する王様の「君たちのせいではないんだよ」という言葉が、子どもにとってどれほど救われる大きな言葉だったことか。DV加害者の更生についても書かれています。絵本の最後の「笑顔きらきら」がどこの家庭にも当たり前であって欲しいです。

## 「おこだでませんように」



出版社：小学館  
作：くすのきしげのり  
絵：石井聖岳

最初、この絵本を読んでとても反省しました。そして、思わず涙が出そうになりました。思い当たることがあったからです。私（親）の都合に合わないからと怒ったり、我慢できずにその時の気分でどなったり……。でも、そんな親に子どもはいろいろな思いを持っていると、今さらながら気付きました。口数が少なくなる男の子のこころは複雑です。家族のために頑張っている親に心配をかけちゃいけない、でもかまって欲しい。男は泣いてはいけないなどというジェンダー（※）にもとらわれやすい。子どもなりの気遣いが伝わります。大人の心に余裕がない時こそ、子どもの心の声に耳を傾けられるようになりたいと強く思った一冊です。

※ ジェンダー：社会によって作りあげられた「男らしさ」「女らしさ」

## 「日本は世界で何番目？ 家族・教育・労働2」

出版社：大月書店  
編：藤田千枝  
著：菅原由美子



男女共同参画を知るには、この三分野のデータを読むところから始めたい、それにうってつけの本がこれです。「働く女性の地位や賃金は？」「男性は家事をしている？」「パート労働者 多い？少ない？」など36項目を見やすいグラフと解説で示しています。国際的な比較の上で必要な「事実婚」「同性婚」「婚外子」「ワーキングプア」「クオータ制」などの言葉の説明が入っているのがうれしい。巻末に統計の出典や参考図書・ホームページもついていて、子どもに統計を読む力をつけるのにもお勧めの本です。個人的には「日本の資産家トップ31」が、女性の少なさもさることながら、今儲かっている職種が一目瞭然で面白いです。

## 「わたし」

出版社：福音館書店  
文：谷川俊太郎  
絵：長 新太



「わたし」みちこは、25面相みだい。自分と他者とのかわりをシンプルに紹介しています。そして、「自分は何者か」という哲学的疑問の答えがそこにあります。絵本から哲学が生まれるってすごい！性別も一つの個性と考へ、それを大切に思うことが自己肯定感になり、生きていく自信になると思います。あなたの個性はいくつあるかな？

## 「ますだくんのランドセル」



出版社：ポプラ社  
作・絵：武田美穂

ますだくんは、5人きょうだい。お姉ちゃん1人、お兄ちゃん2人、妹1人。今はこんなにきょうだいがいる人は少ないと思いますが、きょうだいは3人いると社会性が自然と身に着くといわれています。

お姉ちゃんやお兄ちゃんのランドセルが、うらやましくてしかたがない幼稚園児のますだくんは、卒業間近のお姉ちゃんから、赤いランドセルを貰えることになり、ランドセルの色なんて関係なし。武田さんの力強いタッチの絵も常識を打破するのに効果的！ランドセルの色は男女区別の時代もありましたが、今はカラフルですね。しかも海外ではファッションとして流行しています。選択ができるものがあること、固定観念なくそれを選べる自由さがあること、それは、自分が決定していくという生き方にも通じるかもしれません。

## 「子どもにウケるお話大作戦

### 絵本であそぼ！」



出版社：小学館  
作：パパ'S絵本プロジェクト  
安藤哲也 金柿秀幸 田中尚人

今ではあちこちに引っ張りだこの「パパ'S絵本プロジェクト」の3人が、オススメする絵本を紹介する本です。パパ目線で選ぶ本は一味違います。3人が「パパ'S絵本プロジェクト」を立ち上げたときの話や、それぞれの子育ての中での読み聞かせの面白エピソードなども書かれていて、絵本を紹介する本なのにとても楽しい読み応えのある本になっています。